

いうわけですから、前ページ左表の階級も連続変量のように考えて、右表のように書き直します。

階級20~29は、19.5以上~29.5未満となります。これは、20は19.5以上~20.5未満、29は28.5以上~29.5未満と連続変量扱いをするためです。

また、最小の階級10~19は ~19.5未満に、最大の階級90~100は89.5以上~ のようにします。これは、正規分布の両すゝぞに対する当てはめを考慮したものです。

- 次に、 $Z$ の欄ですが、これは、左の階級の欄の数値を、規準値に変換したものです。規準値とは、その値が、平均から標準偏差の何倍ずれているかを示すものでした。

$$\frac{19.5-54.4}{15.7} = -2.22, \quad \frac{29.5-54.4}{15.7} = -1.59$$

$$\text{④ } 15.7 (M+) , 19.5-54.4 \div MR = , 29.5-54.4 \div MR =$$

.....  
以下同様にして計算します。

- 次に、正規分布表より、 $Z$ の欄の階級（区間）の確率を求めます。この求め方は少しややこしいので、図で説明することにします。

